

平成22年度第2回心理学教育FD/ICT活用研究委員会 議事概要

I. 日時：平成22年9月18日(土) 17時から19時まで

II. 場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者：木村委員長、金子委員、大嶋委員
(事務局) 井端事務局長、森下主幹、渡邊職員

IV. 議事概要

1. 検討内容

①初めに、前回の委員会に引き続き学士力の到達目標を実現するために、心理学の授業で学生にどのように能力をつけさせたらよいか、あらためて目標を絞ることになった。

- ・心理学は、多方面の学問分野で応用されており、心理学独自のICTと考えるとアイデアがみつけにくいとの意見が出た。
- ・心理学を学ぶ学生が、授業を理解できない、興味がない理由から考えたら良いのではないか。
- ・身近なテーマから、学習すべき内容がみえてくる。ディスカッションにより、自分の先入観を改めるのに、心理学知識を活用することに気付くプロセスが大切。心理学を学んだことで、人間についての考え方を身につけることができた学生自身に認識させる。
- ・どう考えたかが重要であることを学生に理解させるのが難しい。TAや異なった学年の、学生間のたての仕組みで、お互いに動機づけをさせる方法も考えられる。
- ・授業の中でICTを使うことだけを想定するのではなく、裏で効率よく使うということも考えたかどうか。視聴覚教育という概念から脱することが必要であろう。学生がディスカッションをしながら、裏でICTを使って基礎知識を身につけさせる方法も良いのではないか。いわば自主研究での使い方である。
- ・学士力の向上のためには、気づきのプロセスが大切である。
- ・社会現象の心理学的説明にも、ICTが使えるであろう。
- ・学生にインセンティブをつけるために、大学間でコンテストをする案もある。
- ・学士力の到達目標に関して、学士力1については、心理学特有のICT活用方を見つけることは以外に難しい面もある。学士力2では、①、②の実験に関わる部分で、結果の解釈で、対象条件をもとに、どのような工夫が必要か考える力をつけるためことが重要である。学士力3では、①のディスカッションタイプで使えるのではないか。

2. 次回までの宿題

各委員が、自分の専門として担当する15回分の授業をイメージして、「学士力の実現を目指すICT活用授業の開発モデルの例示(メモ)」にあわせて考える。

(考え方) 学士力の到達目標及び到達度を達成するのに効果的な事例を研究する(2、3例)。

1. 学士力の到達目標をつけるために自分の専門科目の授業をイメージして、どこにあてはまるかも明確にする。
2. 授業全体のねらいと概要を考える。
3. ICTを使うところをズームして、その授業のやり方、期待される効果、学習環境を考える。
4. ICTを活用した授業運営上の問題や課題を考える（大学環境や人的支援の必要性を含める）

（学士力考察目標）

到達度1－③人間の心や行動が生物学的、個人的、社会・文化的要因の影響を受けていることを客観的・論理的に説明できる知識を用いて、具体的な心理学的現象を説明できる。

到達度2－①因果関係、相関関係を説明することができる。

到達度3－①既存の理論や概念に基づいて、心理学的観点から問題を発見し、新たな発想を立てられる。

原稿締切 11月20日（土）まで

V. 次回の開催日程

日時：平成22年12月4日（土）午後1時30分から3時30分まで

場所：私立大学情報処理教育協会事務局